

武石地域協議会会議録

日時 平成 19年 1月 25日（木）午後 2時から午後 3時 40分

場所 武石地域自治センター 2階会議室

出席委員 新井繁雄委員、井出守雄委員、伊藤静子委員、伊藤隆子委員、内田安博委員、柿蔭祐子委員、清住章雄委員、清住隆幸委員、小山洋江委員、桜井敏昭委員、桜井美枝委員、高田忍委員、橋詰真由美委員、松代典之委員、依田せつ子委員

欠席委員 北沢直美委員、滝沢潔委員、滝沢幸彦委員、竹内新蔵委員、松井幸夫委員

市側出席者 宮下武石地域自治センター長、広川地域振興課長、児玉地域政策担当係長、掛川主事

1 開会

（広川課長）

ただ今から第5回武石地域協議会を開催させていただきます。

2 桜井会長あいさつ

（桜井会長）

前回、6項目に分けてご協議いただきました。このあと事務局からご説明申し上げますが大勢の皆さん方のご意見を尊重して、ひとつ項目を増やしてそれぞれのセクションごとに充実した内容にして答申をしたいということで事務局原案を作っております。それを基本にして本日この会議で決定していただいて、2月9日に上田へ行き市長に答申を申し上げます。これは市内の9協議会全ての会長が一堂に会して市長に答申を申し上げることになっていますので、今日ご決定をいただきたいと思います。今まで充実した意見をいただいた経過もありますので、時間を有意義に活用いただいて決めていただければと思います。よろしくお願いいたします。

3 センター長あいさつ

（宮下センター長）

大変お忙しいところ、ご苦勞様です。

第5回目の地域協議会ではありますが、地域協議会の非常に大きな任務である市長から諮問のありました市の総合計画の基本構想の中の武石地域の地域計画について、今日まで3回のご協議をいただくことになったわけであります。会長のお話のとおり、本日最終の答申案をお願いしたいということでございます。3回の議論の中で、地域の特色やよいところを再認識いただいたと思いますし、また武石地域として大きな課題や解決していくべき問題も見えてきたのではないかと思います。今日答申案をまとめていただき、2月9日に市長に答申をしていただくことになるわけですが、そうした中で、今後は答申の中に盛り込んだものをどう具体化していくのかということが地域自治センターや協議会の課題になってくると思っています。合併してもうじき1年になるわけですが、まだまだ調整段階という感じがしております。いろいろなことがこれから協議をして予算化していくときに、それがたたき台の上にのっていくということがまだまだ多いかなというふうに思っています。協議会の方で盛られた個々のケースにつきましても、今の時代合併した

からといって決して財政的に豊かになっているわけではありませんので厳しい折、ここに住む住民と行政との市民協働という考え方の中でどうやって地域づくりをしていくのかということがまさに問われようかと思います。よろしくご協議いただきまして、お知恵やお力をお借しいただきたいと思います。

4 協議事項

(1) 総合計画「武石地域まちづくり方針」についての協議

(桜井会長)

それでは協議に入らせていただきます。

皆さんにお配りしてあります武石地域「地域まちづくり方針」(答申案)を議題といたします。最初に事務局から説明をお願いいたします。

(児玉係長)

—武石地域「地域まちづくり方針」(答申案)の資料に基づき説明—

(桜井会長)

それではこれから協議に入りますが、その前に皆さんにお願いをしておきます。答申につきましては全協議会この形式で行うということになっていきますので、形式は重んじていただきますと思います。それから各項目ごとにご意見を伺いますが、それぞれの考え方、地域の方向性については今まで2回いろいろなご意見をいただきましたので、今回はまとめとしてこの答申書がこのままでよいのか、変えるべきかということを中心としてまとめていきたいと思います。何が欠けているのか、どのような文句を入れるのか、あるいはこの文言は変えたほうがいいのかといった具体的なご意見をお願いしたいと思います。最終的に決定すれば、それがそのまま市長のほうへ答申書として提出することになります。今、皆さん方に説明を申し上げましたが、最終的なまとめということですから、今すぐというのも難しいかと思うので、若干時間をとりましてその間にもう一度それぞれに黙読していただいて、文章的なものが武石地域の方向性として良いか悪いかということを中心としてご検討いただく時間を設けたいと思います。

(委員)

ただ今桜井会長から、この文章についてだけというお話ですが、1回欠席していますので若干お話をしたいのですが、私も以前に広域連合の会議などに出させていただいて、内容がはっきり出ていない文章というのは非常に分かりづらいと感じています。総体的にまとめたときに、ではいったい何をするのか、私たちが要望していることは何なのかということについていつも考えていて、私も提言したことがあります。我々のような職人や労働者がまちづくりを考えたときに、その人たちが地域を担っているという部分が多いにもかかわらず、その人たちが報われるようなことはないのか、ヨーロッパにあるようなマイスター制度のようなものを上田市でも作ったらどうかという話をしたことがあります。これから考えていきますとの答えをいただきましたが、その後まったくそういった話は出てきません。まちづくりとなるとJ・T跡地の開発などは出てくるのですが、個人を大事にして地域全体を活性化していくというようなことは何も出てきません。地域まちづくり方針については、市議会でもいろいろなことが審議されたり、いろいろなところへこの文章が出ていくわけですが、この中で言わんとしていることはどうやって把握するのか、センター長が行っていちいち説明するのか、そうしなければ分からないと思います。地域の課題をやってもらいたいということで答申するというのであれば、児童館でも体育館でも造ってもらいたい

のですから、それをわざわざ説明に行かなければ分からないよ うな文章で書く必要はないと思います。児童館を造ってほしいのだからそう書くべきです。児童館を造るというその先にはいろいろな問題があると思います。武石の人口がどんどん減っていく中で、小学校の存続も危なくなってくるという可能性もあります。それなら児童館をしっかりと造って人口増を図って子どもたちを増やすような施策をしっかりとしておけば、少なくなったときも学校は残してもらえらるだろうという先を見た中で皆さんに取り組んでもらっていると思うのに、そういうことまで載せないで、では誰に分かってもらうのかと思います。その辺をはっきり わかるようにお話いただければ、このままでけっこうです。他の部分は全体的によいのですが、その部分が将来的にわたって一番やってもらいたい部分なんです。子どもを含め人口を増やしたり、地域活性化していくにはどうしてもそれが第一です。

（宮下センター長）

今の具体的な課題を取り入れてほしいというお話ですが、ご承知のことだと思いますが、今回やっていただいていますのは基本構想の部分に該当するもので8年間の構想になるわけです。これを前期と後期に分けて基本構想からもう少し具体的な半分の4年ずつの計画にするのが基本計画であり、さらに毎年度予算付けまで考えていくのが実施計画という位置付けになるわけです。当然、児童館の問題についてはその部分で謳われるべきものだろうと思います。ですから、今この構想の地域計画の中で論議するのは、武石地域において放課後児童対策をどのようにあげていくかということを経位置付けていただくのが今回の計画の中身の趣旨だと思います。具体的にどの路線、どの施設といったことを載せると逆におかしくなってしまうと思います。そういう観点で、これからの子育て支援をどうしていったらいいかということを経構想していただくであろうと思いますので、よろしくお願いいたします。

（委員）

前回、教育委員会の方からの児童館や図書館の話の中で、いろいろなところで審議してまた地域協議会に戻してくるという話がありましたが、その項目が載ってなくて審議が全部終わってから取り上げるということですか。図書館基本構想や放課後児童対策について、教育委員会や専門部会で協議をしているというお話でした。地域協議会で基本構想だから細かい計画は入れないというお話ですが、基本的にやっていることはどうなるのですか。

（広川課長）

前回の図書館や子育て支援施設の関係は今の市の現状と、市の全体の中で図書館基本構想について部会の方へ諮問をしているわけですが、その途中経過を協議会の始まる前に話していただきました。今回のまちづくり方針は基本構想の部分ですから、具体的に児童館という言い方ではなくて拠点施設の整備だとか、体育館については小中学校関係施設の整備といっているわけです。

（委員）

それはわかっていますが、他の人が見たときにそういうことがわからないのをどうやって説明するのですか。どうやってわかてもらうのですか。

（宮下センター長）

今回の趣旨は、例えばこういう方向にしましょうという大きなベクトルをさしているのであって、個々にひとつひとつをやっていくということではありません。逆にそこまで出すということになれば、これから8年間の事業計画を細かいものまで入れるのかという話になってしまいますので、今のような変化が激しく財政的な見通しも立てていかなければいけないわけですから、そ

こまでのものはこの中では出せないだろうということです。一定の方向性を出してあれば、その中でこれから３年間の実施計画を立てていくというものであると思います。それから、図書館の計画については、実際に議決されるのは今年９月の市議会ですから、まだ半年以上も先の話です。検討等についてはそこまで待ってはいられませんので、今年３月までに方向を出したいということで審議会で審議していますので、もちろんそういう計画と整合性を取っていかなくてはいいませんが、議決以降が正式な計画発効になるわけです。こういう中で武石の地域づくりをどういった方向で持っていっていいのかということをお考えいただければありがたいと思います。

（委員）

地域協議会の役割として、自分たちでやってもらいたいことがあるのにどうして分からないような文章にしなければいけないんですか。

（委員）

地域計画というのはこれから立てていくわけですから、これは構想だからいいのではないのでしょうか。

（委員）

私もいつも思っているのですが、地域協議会の職務というか責任をどう果たしていくのか、まだわからない中でやっていますが、地域まちづくり方針の答申が、私たちのいちばんの課題だと認識しているのですが、その後においてこれは８年間の構想になるわけですね。今回これを答申した後でわれわれがやるべきものということに関しては、今後は具体的なことに関してやっていくことになるのでしょうか。

（桜井会長）

この会は議会とは違います。基本的には諮問があったことに対して答えるのが原則であって、諮問というのはひとつの形があって、形の中で論議していただくことであり、どこまでも膨張していくものではありません。意見を抑えるつもりは全くありませんが、諮問された形にそったものをつくっていくことが私たちの一番の仕事です。地域まちづくり方針の文章の中で方向性を出し、この地域が抱えている課題というものを文章として表してほしいという諮問でありますので、何を造るとかそういう問題ではなくてどういう方向へ行くのかということなので、あくまで方向性を出すことに限られます。しかし、具体的な問題は別で論議することもありますので、今の児童館の問題についてはそれだけで論議してもらわなければいけないことだと思います。今まで３回協議をしていますので、このことは理解していただいて、諮問に対して答申するというに絞っていただきたいと思いますが、よろしくお願いします。

（委員）

私は合併協議会に出ていて、決められたことだけやっているのが地域協議会の仕事ではないと思っていました。やはり自分たちで地域をつくるためにいろいろなことを発想して、そこで仕事することができるということが初めに決めたことではないのですか。

（委員）

それは今回の議題ではないと思います。

（委員）

その話は委員さんが欠席されたときにやったことです。具体的に皆さんから出してくださいますって出たものをここにまとめてきたのですから。

（桜井会長）

全体のことをフリートークでどうしていくのかを協議する機会は今後ありますので、そのときにはいろいろお出しいただきたいと思います。

それでは再開させていただいて、1項目ずつご意見を伺っていきます。

最初に「武石地域の地域特性と発展の方向」についてご意見をお願いします。

（委員）

ここの文言ですが、前回の方針案と比べると圧縮した感じがしますが、この部分が武石地域から出す一番の柱になると思いますが、ちょっと迫力がなさすぎるかなという気がします。さらりと書きすぎている気がします。やはり住民の皆さんにこういうものを見てもらったときにある程度のインパクトがほしいと思うので、こういう文句を入れていいのかわかりませんが、「あらゆる年代の市民が合併したことによってより住みよいと感じ、」とするとかなりのインパクトが出ると思います。こういう言葉を入れてもいいのでしょうか。

（宮下センター長）

「合併したことによって」と入れるのはいかがかなと思います。最終的にはこの方針で8年間いくこととなりますので、今は合併して1年目ですのでインパクトになるかと思いますが、もう少し違う表現があればと思います。

（委員）

8年間の方針ということは、合併特例債は10年間ということですからその中に含まれる事業はこの中では大きな部分を占めてくると思うのです。そうなったとき、10年間は合併というものをひいていくことは大きな事業の柱になっていくような気がします。

（委員）

前回の発展の方向では「住んでよかった、訪れてよかったと実感できる地域づくりを進めます」となっていますが、この方が気持ちがかもっていいような気がします。

（委員）

今の委員さんのお話や前回のときにも申し上げましたが、目先のことなく、将来においてこの地域に住んでいてよかったと感じる地域づくりをするべきだと思います。我々の世代ではなく、今の子どもたちが将来この地域に住んでいてよかったと思える地域づくりというような言い回しにできないかなと思います。いかがでしょうか。

（桜井会長）

いろいろな意見が出ましたが、他にありますか。

「あらゆる年代の市民が住みよいと感じ」は前回の「住んでよかった」という言葉に変えるということでもよろしいですか。文章的なものは事務局にお願いしたいと思います。

（児玉地域政策担当係長）

では「将来にわたって住んでよかった、訪れてよかった」という表現でもよろしいですか。

—賛同—

（委員）

「市民」という言葉にまだ違和感があり、農村市民とかどう表現していいかはわかりませんが、私としてはまだなじまないのですが。

（桜井会長）

「市民」か「住民」どちらかだと思いますが、市に住んでいればどんな山奥にいても市民は市民です。ただ感情としてなかなか素直に入ってこないということはあるかと思いますが。市民とい

う言葉になじんでもらうためにもこのままでよろしいですか。それから、先ほどの「合併したことによって」という文言はどうしますか。

（宮下センター長）

できれば「合併」というと過去のものになりますので、むしろ「将来にわたって」ということのほうがニュアンス的にはいいかなと思います。

（桜井会長）

よろしいですか。それでは先ほどのようにさせていただきます。

次に「すみよい地域づくりの推進と地域情報化の展開」についてご意見がありましたらお願いします。

（委員）

お聞きしたいのですが、最後の付帯意見にも出てくる「工場誘致を可能にする大容量の情報伝達システムの基盤整備が必要」というところにもつながるかどうかわかりませんが、地域情報システムの整備などをどれだけの人が武石地域に要望しているのかという問題と、そういうものをやっておくと企業を誘致できるということかわかりませんが、そういうものは前回もお話しましたように、非常に手間暇かかって一般の人たちが使うには大変なものだと思います。そういうものを武石地域に少ない予算の中からもしっかり要望しておいた方がいいことなのか、やってもらえる可能性の問題ですがそう感じています。

（委員）

私もこれを提案した一人ですが、やはりこれからはインターネットの時代だと思います。今はFAXや電話で身近なところは送れますが、これからは世界を相手にやっていく時代になるわけです。8年間でできるかどうかはわかりませんが、将来を見据えて若者を呼び込むにも光ケーブルを含めた大容量の情報伝達システムというのは必要ではないかと思います。

（委員）

光ケーブルはどこまで入っているのですか。

（児玉係長）

光ケーブルは武石地域は入っていないかと思います。

今、委員さんの言われた「大容量の情報伝達システム」というのは付帯意見ですので、武石地域ということではなくて上田市全体のまちづくりに向けてということで出しますので、武石地域で特化してやってほしいということではなくて上田市全体の基本構想の中でお考えいただきたいということで付帯意見に載せたということです。武石地域のところに載せてありますのは、オフトークに替わる新たな告知放送の問題や個人的なインターネットの振興などを図っていくという大きなくりで表現させていただいています。

（桜井会長）

他にありますか。

それでは次に「地域をつなぐ道路交通網の整備」についてご意見をお願いします。

（委員）

これは一番大事な問題だと思うのですが、具体的な路線名などは縛らせてしまうので入れない方がいいと思います。文章はこのままでいいかと思いますが、道路というのはやはり重要ですのでもう少しインパクトがあった方がいいかなと思います。

（桜井会長）

道路整備については各地域全体の課題です。この項目がありますので、今度は具体的に路線に対しての要望というのは、例えば国道、県道は別にして地方道をピックアップして強く要望していくということだと思います。よろしいですか。

では「魅力ある農林業の創出と商工業の振興」についてご意見をお願いします。

（委員）

お聞きしたいんですが、「担い手農家」というのは「農業後継者」という解釈をしてよろしいですか。

（宮下センター長）

それも含めてです。高齢化が進みなかなか20～30代の人が入ってきていない現実がありますので、担い手を育成する方々に対する支援ということも必要になってくるかと思っています。

（委員）

「培われてきた」という表現が、地域特性と発展の方向と 住みよい地域づくりの～と 魅力ある農林業の創出と～の中で3回も使われているので、違う表現も使った方がいいのではないかと思います。

（児玉係長）

わかりました。事務局で検討します。

（委員）

文章を読んでいきますと「市内でも有数の畜産の盛んな地域です」とあります。確かに畜産は盛んだろうと思いますが、その後の文章に畜産をもっと盛んにしていくにはどうしていくのかが載ってきていません。花づくりも盛んにやっていることですし、その他農業もいろいろなことをやっているわけですが、畜産だけをピックアップして盛り込んだことが果たしてどうなのかなと感じました。

（委員）

武石地域の農業総生産の6割が畜産です。非常に大きな比重を占めているということと、これからミヤマブロイラーも含めて畜産というものを何とかしていかないと武石の農業そのものが、特に山手の方ではそういうものを生かしていくことが農村風景を生かすことにもつながるし、農業収入を上げることにもつながるわけです。今まで漏れていたことも含めて、文章に入れていただくようお願いした面もあります。畜産を取り巻く情勢も非常に厳しいので、ここに具体策はありませんが「畜産」という文言を入れておいてもらわないと、国や県、市のいろいろな助成措置につながってこない面もありますので一言だけでよいので入れてもらいたいという私の要望を含めてお願いしました。

（桜井会長）

ただいまのお話のとおり、畜産については非常に強い要望があって入れたということです。ただ先ほど委員さんが言われたように次につながる文章に全部ひっかかってしまうのかという問題がありますが、特に武石の畜産が非常に経営も安定していますし、他の範となるように経営をされていますので、ある程度強調してもいいのかなとは思っています。

（委員）

畜産の関係は別立てで文章を作ったらどうでしょうか。

（宮下センター長）

この項目については商工業がなかったり見直す点があるかと思っていますので、若干直したほうが

いいかなと思っています。ただ先ほど委員さんが言われたとおり産業でありながら農村風景にも関わってくることで、人の生活や産業を考えたように少し直させていただくようにお願いできればと思います。

（桜井会長）

文章的な技術の問題ですので、やはり商工業も含めていますから前文にその辺のニュアンスの言葉を入れてもらって、委員さんのほうから要望がありましたが、特に農業の中で武石の畜産は非常に大きなウェートを占めていますので、何らかの形でその辺のインパクトを出してもらおうということでご了解いただいてよろしいですか。

—賛同あり—

それでは「都市・農村交流と広域的な観光の展開」についてご意見をお願いします。

—意見なし、賛同—

特段意見がないようですので、次に「地域に根ざした医療・保健・福祉・介護の充実」についてご意見をお願いします。

—意見なし、賛同—

意見がないようですので、次に「地域の特性を活かした教育の推進とスポーツの振興」についてご意見をお願いします。先ほど説明がありましたが、教育関係について新たに項目を設けました。

—意見なし、賛同—

続いて「明日を担う教育・子育て支援施設の整備」についてご意見をお願いします。

（委員）

子育て全般をいっている項目ではあるのですが、(2)で「小中学校関係施設の整備を進めていきます」となっていますが、保育園や未就園児のことが具体的には入っていないのでその辺を入れた方がいいのではないかと思います。

（委員）

前回も申し上げましたが、地域ごとの未就園児など子供たちの遊び場なども含めていただければと思います。児童館はいいのですが、各地域に戻ったときの遊び場、昔は公民館のグラウンドなどで遊びましたが、今はそういう整備もありませんので、各地域で小さい場所でもいいですから子どもたちが集まる場所についてもこの文の中に入れていただきたいと思います。

（児玉係長）

この項目ですが、施設の整備ということにウェートを置いて作った文章です。特に長期計画の中で武石地域の一番の目玉になることは、先ほど委員さんのお話にもありましたように児童館を中心にした子育て支援の拠点施設の整備と小学校の体育館の整備になります。合併前の武石村のときに長期計画が立てられていまして、合併し上田市になってからもそれが生きているわけですが、その中に中学校関係の整備なども載ってきているわけです。具体的に長期計画の中に書いてあることを想定させていただいて施設整備という形でくくらせていただきました。こないだのお話の中にありました、児童館と書いてしまうと学童クラブの方が出てこないという委員さんの意見で放課後児童対策の拠点施設という言いまわしにすればよいということと子育て支援という言葉を入れれば全体が入るというお話をいただいて、ここは「子育て支援と放課後児童対策を中心とした拠点施設」という非常に難しい名前になってしまいましたが、その2点について項目をあげたということです。 については 広く教育全体のことを書いたつもりです。生涯学習、生涯ス

スポーツの中には人生それぞれその場所場所における学習の展開やスポーツの振興であったり生涯という言葉を使うことによって「あらゆる年代層の皆さんが」ということも以下の文章にかかってくるといふふうになりますので、こういう書き方をしたということになります。そのようにご理解いただければありがたいと思います。

（委員）

に若者定住施策や子育て支援施策というのがありますけれども、私の要望した地域の遊び場というのにも含まれていると解釈してよろしいですか。

（児玉係長）

そのとおりです。

（桜井会長）

それではひと通り終わりました。若干手直しさせていただきますが、全体で何かありましたらお願いします。

（委員）

「都市・農村交流と広域的な観光の展開」の中にある「キャンプ、森林浴」というのは実際になかなかやりにくいことですし、具体的な名前になってしまっています。こういうことよりも今、練馬区のスキー教室は大きな交流の柱になっていると思います。スポーツについても交流をやっているの、そういう表現の仕方があったら入れていただければありがたいかなと思います。スキー場整備も先ほどお話がありましたとおり、武石の長期計画の中にも完全に含まれたもので合併の話し合いの中でも整備するというものが載ってきているので、そういうことを含めてスキーという具体的な名前ではなくてスポーツレクリエーションという言葉を入れていただければありがたいと思います。これはスポーツの振興ではなくて観光として考えてもらうということをお願いできればと思います。観光施策としてスポーツを入れておけば武石は民宿などもありますので、合宿なども含めて観光施策の一因としてスポーツはかなりのウェートを占めていると思います。

（桜井会長）

今の文章では具体的過ぎて少し視野が狭いので、広い範囲で書いていただくよう事務局にお願いしたいと思います。

（児玉係長）

諮問シートの中には「森林レクリエーション」という書き方をし、注釈がつけられています。その注釈を分解してキャンプ、森林浴と書きました。それを森林レクリエーションと表現するか、それがキーワードとしてグリーンツーリズムという言葉があります。これも滞在型のリゾートになるのですが、あまり横文字を使いたくはないと思っています。

（桜井会長）

キャンプや森林浴というのは非常に狭い範囲だと思いますので、委員さんの言われたようにスポーツという言葉を入れてもらうということによろしいですね。

全体を通して他にありますでしょうか。

（委員）

「地域に根ざした医療・保健・福祉・介護の充実」の中に依田窪福祉会が出てきませんが、位置付けはどうなっているのですか。

（宮下センター長）

依田窪福祉会、社会福祉協議会その他諸々いろいろあるかと思いますが、それは社会福祉法人

という市とは別の人格のものです。そういう民間事業者の皆さん方も含めて福祉をどうしていくか、そこまでを示すものではないと思います。具体的に依田窪福祉会をどうするとか 上田市社会福祉協議会をどうするといったことではないと思います。

（委員）

そういう意味ではなくて、それはどこでどういうふうにとらえていけばよいのですか。そういうところで一緒にこれから地域づくりをしていかなければいけませんよね。

（宮下センター長）

総体的には福祉・介護の部分をやっていくということになると思いますが、武石の地域としてそうしたところへの具体的な何かをうたいこむ必要はないかと考えています。福祉の部分は、市の60人の分科会の方で全市的な福祉関係、介護関係について検討されますので、この地域の中であえて、例えば特養が必要だとか具体性を持って考えていくということは今の段階ではないかなと思っています。

（委員）

他によろしいですか。

（委員）

「魅力ある農林業の創出と商工業の振興」についてですが、私はたまたま今商工会長をやっているのですが、商工会も今過渡期に来ており、どこの団体も新しい市になるとひとつの団体にしようということで統合したり合併したりしています。上田地域の商工会も当然そういう方向でやっていかなければいけないということで話が進んできています。県としてもひとつの行政区ではひとつの団体がいいだろうということで、新しく村井知事に代わっても基本的にはそういう方向で行くということです。しかしこんなことを話しているのは全国で長野県だけで、全国的にどこの市へ行っても商工会もあれば商工会議所もあったり、商工会がいくつにも分かれたりしていて、その地域の振興や活性化にいろいろな事業を行っているのが実態なわけです。ひとつ例として申し上げますが、塩田商工会、川西商工会が昨年10月に上田商工会議所に統合されました。合併規定がありませんので、商工会が解散して商工会議所になるわけですが、当然そこで商工会議所に入るか入らないかは個人が決めるわけです。その結果としては塩田も川西もそうですが、残っている人が大体40%ということです。100人いれば40人しか残らなかった、あとの人は商工会や商工会議所からやめてしまったという状況になっているわけです。商工会も長い間青年部を中心として、夏祭りを始め福寿草まつりやともしびの里駅伝のお手伝いなど地域の振興事業をいろいろやらせていただき、地域になんとか貢献していきたいということでやっています。そういうことをやるにはやはり人がいなければできない、会員数がある程度確保していかなければできないことです。私がぜひお願いしたいことは、この文面の中に武石地域でも商工団体が存続できるような方向性を載せられないかということです。これも非常に難しいもので、上田市長も1行政区に1商工団体にしてもらいたいと言っているわけですが、先ほどお話したように合併規定がありません。商工会議所の方でも20人の職員がいるわけですが、合併してやっていこうとしても武石や丸子、真田の商工会館を残して職員も残しては絶対にやっていかれないと、今の上田商工会議所の職員だけで精一杯だというのが現状だそうです。そういう話になると商工会館はなくなってしまい、ここには誰も置くことができないような状況になりかねません。非常に難しい時期にさしかかっており、これから話し合いを進めていくわけです。そんなことがありますので、この長期計画の中でどうにかこの地域の活性化を図るため、仕事ができるような方向性

でいくためになんとかうまく商工業の振興に関われるようにできないものかなと考えています。

（桜井会長）

おっしゃることはごもっともだと思います。私も合併協議会の中でそのことについていろいろご意見を申し上げた経過がありますけれども、非常に現実には厳しくて武石の商工会は経営の援助といえますか指導だけではなくて、さまざま相談を一手に引き受けるようなところもありまして非常に地域に根ざしているのが大事なのですが、前県知事の県の補助金の体制がなくなってきましたし、非常に難しいだろうと思いますが、現役の商工会長であればごもっともだというふうに思います。それは皆さんのご意見を聞きますけれども基本的には委員さんと事務局で詰めていただいて、具体的に商工会を残すという言葉で書けるかどうか疑問がありますけれども、その辺のインパクトを強めて、特にこの問題は入っていませんので、私共がここで意見を出すというよりは、商工会長でもある委員さんと事務局でよく詰めていただいて、委員さんが納得できるように作っていただきたいと思います。事務局の方はどうでしょうか。

（宮下センター長）

市長の方針が一定程度出ていますので、なかなか難しい面があるかと思いますが、当然地域づくりのためにも非常に重要な団体であり活動していただいていますので、その育成が必要だというようなニュアンスでどうかなというふうに思います。

（桜井会長）

私も客観的に見てそう思うのですが、商工会がいろいろなイベント等に対して積極的にやっていただいている、実際に今の30～40%しか残らないということになると武石地域だけではいろいろ寂れてくると思います。商工会だけがやっているわけではないですが、商工会が中心にやっていたことは非常に多いし、その辺がいちばん若い人たちが集まっている団体でもありますから、少なくともこの文章の中にもそういう意味を含めてぜひ私の方からも入れていただくようお願いしたいと思います。そういうことでよろしいでしょうか。

他にありますでしょうか。

（委員）

「地域をつなぐ道路交通網の整備」ですが、これを読んでいるとどうしても外に対しての部分だけであって、地域内における道路整備、別に道路を作れとか拡張しろという意味ではないのですが、地域内の整備という部分も打ち出しておいた方がいいのではないかと思います。文章のつながりを読んでいると、どうしても外に対しての路線のつながりという部分しか見えてきません。

（宮下センター長）

基本的に道路の維持補修ということは計画としてはどうかなと若干思うところがありますが、やはりその部分については総体的な中で考えればよいことであって、地域内の道路が武石としての大きな課題なのかなという気がします。この地域の計画ですから、全体的な道路計画というのは考える部分があるのですが、もう一点は地域の中では、一定程度道路インフラについては整備されてきているかなと思います。もちろん今年も上武石沖線や小沢根線など諸々の補修については一定程度やっていますので、そうした部分をうたい込む必要はないのではないかと思います。

（桜井会長）

今センター長のおっしゃることは、地域内の整備は当然のことで将来計画の中に入れなくても維持管理、整備は通常の予算の中で常にやっていくことだという解釈でよろしいですか。そうい

うことですから、あえて将来構想の中に入れなくてもいいということのようですが、よろしいですか。

（児玉係長）

それと武石地域の中で道路開発の可能性としては美ヶ原の台上へ行く道の拡幅などがありますが、の観光の部分に「関係幹線道路の整備を促進し」と載せてあるのですが、広域的な観光を展開するという観点から地域内の幹線道路の整備等も考えていきますということで書いてあります。

（桜井会長）

インフラの整備がされていると言い切れるのか疑問がありますが、あえて言う必要があるのかと思いますがどうしますか。よろしいですか。

それでは事務局で若干手直しをしていただいて 最終的にまとめるということでご了解いただいて、9日はこのような形式で答申を各協議会とともに出したいと思しますのでよろしくお願い致します。ありがとうございました。

（２）その他

（桜井会長）

それでは続いて、その他に入らせていただきます。

1点は私の方から申し上げますが、先日正副会長で構成する上田市地域協議会連絡会議がありまして行ってまいりました。そこで、会長には川西地域協議会会長の宮下昭夫さんが、副会長には丸子地域協議会会長の片桐久さんが選出されました。会則は、従来のものと一緒で、必要に応じて会議を開く、正副会長を決めて必要があれば協議をするということではほとんど問題はないかと思います。そこで議題になりまして各地域協議会で協議をしてもらいたいということがありましたので、事務局から説明をお願いします。

（広川課長）

各地域協議会で検討していただきたいという案件なのですが、地域協議会の会議録についてはホームページで公表していますが、会長以外の方は「委員」という表示で氏名を公表していないのですが、先日の連絡会議で上田の一部の地域協議会から「委員名を公表するべきではないか」という意見が出ました。賛成意見としては責任を持った意見をいうために公表するべきであるということ、それから会議はすでに公開されており傍聴に来た人はどの委員が何を発言したかがわかるということ、反対意見としては勇気ある発言をする人がいなくなるのではないかと、それから発言をすることにより嫌な思いをするかもしれないということなどがありました。事務局の案としては、今後原則公開としたいということです。ただし、条例第10条の5で「ただし、議長が必要と認めるときは、協議会に諮ったうえで公開しないことができる」という文面がありますし、利害関係等に関する協議内容で公開しない方がよいと地域協議会が判断した場合には公開しないことができる、個人のプライバシーに関するような場合には公開しないということです。これについてご検討いただいて、次回連絡会議のときにそれぞれの協議会の検討結果を会長から報告いただくことになっています。

（桜井会長）

今説明がありましたように、この会は原則的に誰が傍聴してもよいものですし、特別な秘密会議を設ける場合は別ですけれども傍聴は自由だということで、以前にも傍聴希望者がありました。

そういうことからすると私は非公開にすることは無いと思いますし、協議会は上田市内に9つありまして武石だけ非公開で他は公開しているというのも問題ですし、そういう意味では事務局案で原則公開とし、個人のプライバシーなどに関する部分は非公開にするとか、対全体を評価した場合には公開しないとかそういう枠があれば、それでいいのかなと思いますかどうか。

—意見なし—

（桜井会長）

インターネットでの公開ですから、冊子にして配るといようなことはしませんので、インターネットで見た人しか誰が何を言ったのかはわかりませんので、市の事務局案にご了解をいただくということをお願いしたいと思います。

—賛同—

（委員）

いつから氏名は公表になるのですか。

（広川課長）

次の連絡会議があったときに正式に各協議会からの意見が出てそこで調整されますので、それ以降になります。

（桜井会長）

他に事務局の方で何かありますか。

（広川課長）

委員さんの研修会の件ですが、3月15日（木）午後2時から上田の創造館で委員さんを対象にした研修会として、講師は未定ですが講演会を予定しています。正式な通知は差し上げますが、予定していただきたいと思います。こちらからマイクロバスかワゴン車で行きたいと思いますのでよろしくお願いします。

（児玉係長）

皆さんにご報告させていただきます。先般、武石地区自治会連合会（区長会）がありまして、そこで新しく今年の正副会長が決まりました。それに伴い、区長会から選出されていた竹内委員さんと滝沢委員が代わります。答申をするまではお二人に委員をしていただいておりますが、答申が終わりましたら新しく地区連合会の正副会長に選ばれました鳥屋の小池さんと堀の内の北沢さんが地域協議会の委員に選出される予定ですのでご報告いたします。またその時期になりましたら正式にお話していきたいと思いますのでよろしくお願いします。

（桜井会長）

それではこちらからは以上になりますが、皆さんの方から何かありますか。

（委員）

私の方から皆さん方に問題を提起しお考えをいただきたいのですが、今日の会議でひとつの役目が終わったかなという気がしています。これから新たにいろいろな問題が提起されてくるわけですけれども、その前に今回出します答申案の中にも「自主的な活動を展開する地域づくり団体の育成」という文章が入ってまして、それぞれの自治体の中で官民が協働で物事をやるというのが言われてきています。誰がどうやって官民協働で地域づくりをしていくか、具体的に私たちも前々から考えてはいるのですが非常に難しい問題だと思います。地域協議会というものができまして、我々の場合は行政側からの情報は比較的に入りやすい立場であり、なおかつ委員に選任されている皆さんはそれぞれの団体でそれぞれのリーダー格的な立場の方が多いのではないかと思います。

います。それならば今回7つの項目に分かれて答申をするわけですが、この会の皆さんが7つの項目に分かれたグループをつくって、そこにそれぞれの皆さんがいろいろなグループの方たちを集めていただいて、そのセッションセッションで多くのことを協議をしていくというやり方をしていけば、下へ下へと地域づくりがつながっていくのではないかと感じています。そういう団体をつくって、それを地域づくりの委員というようなものにしていろいろな意見を聞いたものを地域協議会の中で検討し、さらにこの地域づくりを市の方へあげていくというやり方ができれば、地域づくり委員会といいますか官民協働でいろいろなことをやるということはやりやすくなるのではないかと私は考えています。我々が考えていけないとなかなかできないのではないかなと思いますので、私の今日の問題提起を加味して考えていただいて、皆さん方からいろいろご意見をお聞きしていきたいと思いますので、よろしくお願いします。

（桜井会長）

大変貴重なご意見をいただきました。この文章を作るときにも行政側でもよく協働という言葉を使いますが、では具体的に協働をどうするのかという問題もいざそれを具体化するという問題になるとそこへいくまでにいろいろな問題がネックになりますから、委員さんの言われたこともひとつの方法だと思います。これにつきましては、問題を提起していただきましたので、この地域をどういう形で振興させていくか、この文章を具体化していくひとつの手段であろうと思いますので、そういうことを含めてお考えいただいてまた次回皆様方からのご意見をいただきながらよりよい方向へ進めたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは閉会のことばを副会長にお願いします。

（小山副会長）

皆さんお忙しいところ大変貴重な意見をいただきましてありがとうございました。またこれからもよろしくお願いいたします。本日は本当にご苦勞様でした。